

12 子供が鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。

子供はビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやおかしなどをおもしろ半分で鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは、長時間そのままにしておくとな中の粘膜に炎症を引き起こします。



子供が鼻や耳に入れる小物が側にないよう、部屋の中は整理整頓をする。

13 子供だけで川や池に遊びに行くことがありますか。

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、浄化槽や防火水槽など子供が落ちる危険な場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがあると、バランスを崩して転ぶと簡単には立ち上がりません。



普段から川や池、水槽などに近付かないよう注意しておく。

14 水遊びをするときは必ず大人が付き添っていますか。

水遊びは子供を開放的な気分させる遊びですが、子供はわずかな水深でもおぼれてしまいます。浅瀬だから、庭のビニールプールだから、と安心して目を離すと大変危険です。



水遊びをするときは必ず大人が付き添う。ビニールプールは遊んだ後は必ず水を流して伏せておく。

15 あめ、こんにやくゼリー、おもちなどをあげるとき、のどに詰まらせないように注意をしていますか。

子供ののどは未発達なので、気管に物が入りやすくなっています。落ち着いて食べないとあめをのどに詰まらせて、食べ物が飲み込めなかったりして、窒息してしまうことがあります。



食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせる。

子供の健康相談室（小児救急相談）

子供の健康・救急に関する相談に看護師や保健師等が応じています。また、必要に応じて小児科医師が対応します。

☎ 03 (5285) 8898

または #8000 (携帯電話、プッシュ回線の固定電話。
ただし、ひかり電話、IP電話からは、つながりません。)

相談日時 ○月曜日から金曜日(休日・年末年始を除く)
午後6時から翌朝8時まで
○土・日・休日・年末年始
午前8時から翌朝8時まで

東京消防庁救急相談センター #7119

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのか?」「今すぐ病院に行ったほうがいいのか?」等迷った際の相談窓口です。相談医療チーム(医師、看護師、救急隊経験者等の職員)が対応しています。

☎ #7119 (携帯電話、PHS、プッシュ回線)
(ダイヤル回線からは) 2 3 区: 03-3212-2323
多摩地区: 042-521-2323

相談日時 24 時間年中無休

TOKYO子育て情報サービス

妊娠・子育て及び事故防止等に関する情報を 24 時間、電話(音声自動応答)とインターネットにより提供しています。

☎ 03 (3568) 3711



TOKYO 子育て情報サービス

検索

または 東京都福祉保健局ホームページ>子供家庭
>子育て支援>TOKYO子育て情報サービス

SIDS (乳幼児突然死症候群) 電話相談

SIDSをはじめ、その他の病気・流産・死産・事故などで赤ちゃんを亡くされたご家族の精神的な支援のために、専門職(保健師又は助産師)やビフレンダー(同じ体験をしたご家族)による電話相談を行っています。

☎ 03 (5320) 4388

相談日時 金曜日(休日・年末年始を除く)
午前10時から午後4時まで

著作・編集: 元国立保健医療科学院生涯保健部 田中哲郎
東京都福祉保健局少子社会対策部家庭支援課
発行: 東京都市長会・東京都町村会
出版承認番号: 30福保総企画第460号



古紙/バブル配合率70%再生紙を使用しています

平成31年4月

子供に安全をプレゼント

3歳児健診用

(3歳~5歳児対応)



事故防止のポイント

！子供のまわりには危険がいっぱい

周囲のちょっとした気配りで事故の大部分は防げます。

1 子供が外遊びをするとき、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

子供は体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転倒します。走っていて足がもつれたり、三輪車等に乗っていて石や段差で転倒したりします。まだまだ上手に手を出すことができません、顔面からアスファルトやコンクリートに転倒すると大きな事故になる場合があります。



子供のまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。足のサイズに合った靴をはかせる。

2 浴室の床やタイルはすべりにくいですか。

浴室のタイルは水や石けんですべりやすく、転倒するとおけや浴槽、ドアの棧(さん)で打撲したり切傷したりします。



浴室の床やタイルは滑り止めマットをひくなどしてすべりにくくしておく。

3 いつも子供のいる位置を確認していますか。

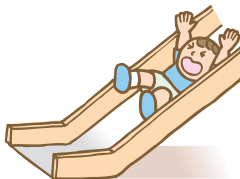
お母さんがおしゃべりに夢中になっているわすかなすきに、ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだりして、子供は思いがけないところに移動します。また、ソファからジャンプして飛び降り、テーブルにぶつかったり、走ってドアや柱にあたったりします。危険な遊び方を始めたら、きちんと指導しましょう。



外遊びをするときは、子供は思いがけないところに移動するので注意する。子供の行動を良く観察し、安全に遊べる環境を作る。

4 すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えていますか。

すべり台で前をすべっている友達を後ろから押したり、ブランコに立ち乗りをしていて転落し、戻ってきたブランコに当たったりすることがあります。子供は決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとするので、安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、おもわぬけがを負ってしまいます。



遊具の安全な遊び方を教える。遊びのルールを決め守らせる。遊具のまわりにガラスやビン、空き缶など危険なものが落ちていないか点検する。

5 ベランダや窓の側に踏み台になるものはありませんか。

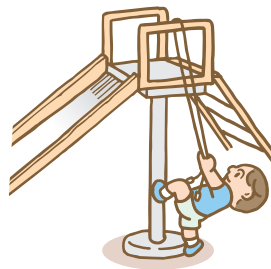
ベランダや窓の向こう側の景色に子供は興味津々です。子供の好奇心をくすぐる場所であるのと合わせて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。高い階にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。



ベランダにはビールビンのケース、新聞の束、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かない。子供がのぞきこめる窓には安全さくを付け、ベッドやソファ、いすやテーブルなど子供の足場となる物をそばに置かない。

6 おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認をしていますか。

おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ちあったり、縄とびやひもをすべり台やジャングルジムにかけて遊んだり、子供は大人が思い付かないような遊びを見つけます。子供の遊んでいるおもちゃや遊具環境、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子供のおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子供は本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきます。



子供の年齢や能力に合った遊具を選び、遊び方のルールを身に付けさせる。

7 車のドアを閉めるとき、子供の指を挟まないか確認をしていますか。

車のドアを閉めるとき、子供の手があるのに気付かず閉めてしまうと、大きなけがを負ってしまいます。車のドアは子供が開けられないようこドアロックしておき、パワーウィンドーを開めるときは、窓から顔や手が出ないか確認してから行います。また、自転車に乗せていて後輪に足を挟む事故も起こっています。



車のドアを閉めるとき、子供の指を挟まないか確認をする。ドアやパワーウィンドーはロックしておく。子供を自転車に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ドレスガードの付いたものを選ぶ。

8 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用していますか。

子供はなかなかじっと座っていられませんが、チャイルドシートに嫌がって座らないと、使用しないで乗せてしまいがちになりますが、スピードを出してなくても、衝突による力は子供を死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。走行中、子供に車内の装置を触らせないようにするためにもチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかり閉めておきます。



車に乗せるときは、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。走行中は子供に車内の装置を触らせないようにする。

9 子供に交通ルールを教えていますか。

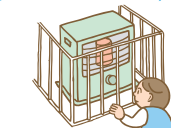
子供は遊びに夢中になってしまうと、周囲に注意を払うことがなかなかうまくできません。信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを追って道路に飛び出しひかれてしまったりすることがあります。



交通ルールを子供に教える。道路を歩くときは手をつなぎ、大人は車道側を歩く。三輪車や自転車は車が通らないところで乗るように指導する。

10 ストープやヒーターなどは安全さくで囲い、子供が熱い物に触れないようにしていますか。

転倒してストープに手をついてしまったり、台所でフライパンやなべの取っ手に触れて中身をこぼしてしまったりすることがあります。台所も子供にとって危険な場所の一つです。



熱い物を触るとやけどをすることを教える。ストープやヒーターなどは安全さくで囲い使用する。台所のコンロの上のなべやフライパンの取っ手には触れさせない。

11 医薬品、化粧品、洗剤などは子供の手の届かない所に置いていますか。

子供は大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬を取り出して誤飲してしまうことがあります。トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤なども無造作に置いておくと誤飲する危険があります。誤飲の場合、吐かせていいものと悪いものがあるので、まず何を飲み込んだか落ち着いて判断することが必要です。



薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。薬入れにおかしの空き缶などを使わない。化粧品や洗剤は棚の中に保管する。